

青山中学校の教育目標の重点の改訂

令和6年(2024)4月1日 岐阜市立青山中学校

【青山中学校の教育目標】

生活を見つめ自ら創り出す

—幸せな人生とよりよい社会—

重点：自立 協働 貢献—

自立—個人として、「目標」に向けて「努力」し「自信と誇り」をもつ生徒
協働—集団の一員として、多様性を認め合い、尊重し合うことで「安心して楽しく生活」する生徒

貢献—社会の一員として、学校、地域、ふるさと岐阜で「誇りある校風」
(生活・学習・環境・文化・熱中)を創る生徒

○意図

義務教育を修了するということは、社会の中で幸せに生きていくための基礎的な力を身に付けるということである。

すべての生徒が、「生活を見つめ」、個人として精神的・経済的に「自立」(目標・努力・自信誇り)し、集団の一員として互いの多様性を認め合い、尊重し合うことで「協働」(誰もが楽しい生活)し、社会の一員として、学校や地域、ふるさと岐阜に「貢献」(誇りある校風)することで、「幸せな人生やよりよい社会」を「創り出す」。

○学校経営の基盤

青山中の教育において、生徒は「主体者・主役・主権者」。教職員は責任をもつ「主導者」。保護者は責任をもち協働する「当事者」。PTAはどの子ども大切にする信頼する「支援者」。地域は頼りにする「応援団」。

青山中の教育は、生徒・保護者・PTA・地域との「信頼」に基づいて行う。

【改定の方向】

- ・学校の教育目標「生活を見つめ自ら創り出す」の目的を「幸せな人生とよりよい社会」と明確にする。
- ・現在の重点「目標 努力 発見」は、人が成長する過程での重要な指標である。このことを踏まえつつ、学校の教育目標の目的である「幸せな人生とよりよい社会」を実現達成するために、必要な資質・能力を設定することが求められていることに応えるために、重点を「自立 協働 貢献」とする。

【理由と経緯】

- ・創立50年目を迎える青山中の生徒には、グローバル化や人口知能等の先端技術の高度化に伴い劇的に変わる未来社会を「生きる力」が求められる。
- ・新しい時代を生きる生徒を育てるためには、新たな教育課程を構築する必要がある。そのためには、教育課程を規定する教育目標には、育成したい資質・能力を設定する必要がある。
- ・歴史と伝統のある目標は継承する。ただし、本目標は生徒のみならず、青山中の教育に関わるすべての人の目標であるため、末尾の「生徒」をはずす。
- ・重点に関しても人間発達の視点である「目標・努力・発見」の意義は継承するが、さらに育成したい資質・能力を設定する。具体的には、国：義務教育の目標(「人格の陶冶」「平和で民主的な国家社会の形成者」「自立」)、学習指導要領の趣旨(よりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を育む)、県：教育振興基本計画、岐阜市教育大綱(一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う(協働)、幸せな未来、役割や責任(貢献))等を踏まえ、重点を「自立・協働・貢献」に改定する。
- ・改訂に際しては、12月 教職員、生徒(1月生徒会・2月中旬全校)、2/9 学校運営協議会(地域・PTA執行部)、3月 保護者に、方針を説明し4月より改訂する。

<系譜>

年度	校長	学校の教育目標 ・ : 重点
S50 1975	初代1年目 堀 重孝	生活をみつめ、みずから創りだす生徒 ・教育活動の土台となるもののみ方・考え方・行動のし方をひろげ ゆとりをもった学校生活をさせる ・真のよろこびにうらうちされた仲間活動を組織させる ・自分の文化をねばり強く追求させる
S51 1976	初代2年目 堀 重孝	・自分をきびしくみつめなおすことができる ・真のよろこびにうらうちされた仲間活動を組織させる ・自分の文化をねばり強く追求させる
S60 1985	3代3年目 小倉 巖	・目標に向けて努力し続ける ・仲間と共に求め合う ・自分をみつけ続ける
S61 1986	4代1年目 船戸 正美	・礼節をたっとび誇りある集団を創りだす ・創意を生かし豊かな青山文化を創りだす ・規律を守り集中する授業を創りだす ・勤労を重んじ暖かい学習環境を創りだす
S62 1987	4代2年目 船戸 正美	・みずから学び練り合いのある授業を創りだす ・みずから行いけじめと活力ある集団を創りだす ・みずから働き美しい学習環境を創りだす
S63 1988	5代2年目 深尾 勝夫	・自ら 学び 練合のある授業 行い けじめと活力ある集団 働き 美しい環境
H2 1990	6代1年目 小林 光臣	生活をみつめ、自ら創りだす生徒 ※みずから → 自ら
H7 1995	8代1年目 酒井 賢	生活をみつめ、自ら創り出す生徒 —目標 努力 発見—
H21 2009	13代2年目 栗田 京	生活をみつめ、自ら創り出す生徒 ※だす → 出す
H22 2010	14代1年目 伊藤 正夫	生活を見つめ自ら創り出す生徒 ※みつめ、→ 見つめ
R6 2024		生活を見つめ自ら創り出す —幸せな人生とよりよい社会— 重点：自立 協働 貢献